

“幸運は備えあるところに訪れる”

このたび、亀戸校に通っているKさん（城東高校 3 年生）が、公募制の推薦入試で、杏林大学保健学部看護学科に、見事、合格しました。合格おめでとうございます。

Kさんは、入学当初から看護学科を志望していました。推薦入試の受験は、かなりの競争倍率があるため、一般入試の学習に重点をおきつつ、推薦入試の準備をしていました。また、部活動をしながら、予備校に通い、その両立は大変だったと思います。それでも、日々の予備校の授業を休むことなく、予習、授業、復習と、本当に黙々とひたむきに取り組んでいました。さらに、医療に関する新聞記事を集め、自分の考えをまとめておくことも、着々と行っていました。

受験校を決めて、過去問題を解く頃、Kさんが「解答がない」と相談に来ました。このため、すぐに、英語科、数学科の先生に相談し、その模範解答を作成してもらい、学習のアドバイスをしました。試験問題は、基礎学力を問うものが中心ですが、体系的な知識の習得が必要でした。高校の授業の復習、予備校での授業の復習、それから、大学入試の過去問演習に取り組み、得点力を高めました。

試験の準備でとても苦戦したのは、面接の練習でした。面接練習の最初のころは、なかなか言葉が思うようにでてこなかったのですが、それでも、何回か練習を重ねるうちに、丁寧な言葉を紡ぐことができるようになりました。面接の練習の際に、彼女がよく話ができたのは、部活動について語るときでした。東京都大会で、上位の好成績を残したKさんですから、懸命に取り組んだ部活動での経験については、熱く語ることもできたのだと思います。実際の面接試験では、質問の中で、その部活動のことについて、一番多く聞かれたそうです。

有名な細菌学者のパスツールの言葉に、「幸運は備えあるところに訪れる」というものがあります。Kさんは、目標に向けてひたむきにコツコツと取り組み、しっかりと受験の準備をした結果、志望校合格を勝ち取ることができたのだといえます。

大学入試センター試験まで、あと1ヵ月あまり。受験生諸君、準備をぬかりなく。